海外レポート　川の営みと共存するまちづくり〔イギリス・ケンブリッジ〕

イギリスのイングランド東部の都市・ケンブリッジは、13世紀に創立されたケンブリッジ大学を中心に「大学都市」として発展しました。「ケンブリッジ」という地名は「ケム川にかかる橋」というのが由来で、このまちの歴史はケム川の自然とともに育まれてきました。

このケム川には多くの観光客が訪れます。パンティングと呼ばれる小舟遊びや、ケム川にかかるいくつもの美しい橋をめぐるコースが人気です。また、川沿いの緑地や水の流れを楽しむ市民の憩いの場となっています。

流れのゆるやかなケム川には、まちと川をはばむ堤防はありません。洪水であふれた水は周囲の調節池や、氾濫原として想定された緑地や農地内で収まり、住宅地まで水が押し寄せることはめったにないそうです。市では、このような洪水をいなすための土地を、生物多様性の拠点として位置付けています。

自然地の確保は持続可能なまちづくりに不可欠であり、ケンブリッジはケム川の自然と共に歩む、川のまちでもあるのです。

ケム川の流れと調和した美しいまち並み

豊かな自然のシンボル・コウノトリの飼育を開始〔千葉県・野田市〕

千葉県野田市では、関東地域での「コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」の先行モデル自治体として、90haに及ぶ里山水田ビオトープをつくり、自然再生、生物多様性の復活、さらには自然と共存するまちづくりを進めてきました。昨年12月、多摩動物公園から2羽のつがいのコウノトリを譲り受け、飼育が開始されました。やってきたコウノトリは、豊かな自然のシンボルとして繁殖・放鳥を目指します。

コウノトリがすめるような自然豊かな環境は、人間が持続可能な社会をつくる上でも重要です。野田市では、コウノトリもすめる安全安心な農産物づくりを進めることにより、農業に付加価値をつけ、米づくりをはじめとした農業を持続可能なものにしていくとともに、コウノトリの見学とそのほかの観光資源とを組み合わせたエコツアーや環境学習による地域振興・経済活性化も期待しています。

コウノトリは行政境を越えて飛んでいきます。関東の4県29市町村が「コウノトリ・トキの舞う自治体フォーラム」として連携して、自然のつながり「エコロジカル・ネットワーク」の形成を進めています。関東地方でのコウノトリ野生復帰に向けた取り組みがいよいよ羽ばたきだします。

※飼育環境に慣れるまで、コウノトリは当面の間は非公開です。

野田市にやってきたコウノトリ

グランドデザイン総合研究所は、自然と共存する美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。
お気軽にご連絡ください。

（公財）日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所　tel. 03-5951-0244

■50年先、100年先の世界にひとつのグランドデザイン作成
■海外の先進事例に関する情報提供
■国の事業を活用した自然と共存する持続可能なまちづくりの提案
■海外視察ツアーの企画・コーディネート
■行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣
■あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催

禁無断転載

つかさどる人のNEWS

NO.30
2013.2発行

（公財）日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244　http://www.ecosys.or.jp

すべての自治体にとって、ほんとうに必要な資本とは
～自然資本をいかした地域づくり～

その土地ならではの自然資本を守り活かすことによって、地域にあらたな輝きがもたらされます（富士山からのぼる朝日）

昨年　2012年は、リオデジャネイロでの地球サミット開催から数えて20年目の節目の年でした。「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」や生物多様性条約の締約国会議COP11が開催されるなど、生物多様性をテーマとした大きなイベントが続きました。

これらの会議の中で大きく取り上げられたものが、「自然資本」の重要性です。

わたしたちはこの地球上で、自然からさまざまな恵み（生態系サービス）を享受して生きています。そしてこの生態系サービスが生み出される源となるストックが自然資本なのです。草木や水産資源など、自然資本はみな有限なものであり、適切に利用することが必要です。しかし、現在の大量生産、大量消費、大量廃棄を前提とし、自然資本を酷使する都市計画、地域計画は、自然と共存する持続可能な社会とかけ離れたものになっています。これでは、将来世代の生存をおびやかすばかりか、とりかえしのつかない事態を招くおそれがあります。自然こそが最大の経済資本なのです。

年末には政権交代もありました。新政権は、「国土強靭化」の名のもとに、大型公共事業を推進し、“コンクリートによる経済活性化”をめざしています。しかし、こうした旧態依然の経済対策は、持続可能な国土づくりとはなりません。自然資本を残し、それを活かした、しなやかな国土こそが、「ほんとうに強靭な国土」といえるのです。そして、自然資本を守り、増やすことが、これからの公共投資の方向性なのです。

持続的な発展のために、自然資本を持続的に活用した国づくり、地域づくりが、今、世界の大きな流れとなっており、地域の個性である自然資本を活かした地域づくりが、求められています。

環境の時代を迎えた今、将来世代のためにどのようなまちをつくっていくのか、すべての自治体リーダーの舵取りが問われているのです。

自然こそが 最大の経済資本

地域の生態系のシンボルとなる生きものを意識したまちづくりの時代

風景、温泉、郷土料理といった
昔からの自然資本に、野生復帰した
コウノトリが加わり、
豊岡市にはいっそう多くの観光客が
訪れるようになりました

生物多様性の喪失は、世界的な問題となっています。生態系を守ることによってもたらされる利益は、失った生態系の回復に必要となるコストをはるかに上回るだけでなく、大きな経済価値を持つことが、最近の経済学的な研究から明らかになっています。

この新しい知見にもとづいて考えると、これからの自治体のありかたが見えてきます。すなわち、その地域の生態系のシンボルとなる生きものを意識したまちづくりこそが、持続可能で経済活性化にもつながる自治体経営といえるのです。

ここでは、身近な自然資本である地域の生態系を守り、生態系のシンボルとなる生きものを意識したまちづくりと経済活性化が結びついている事例をご紹介します。

コウノトリ 兵庫県豊岡市

「コウノトリと暮らすまちづくり」を進めている兵庫県豊岡市では、コウノトリの餌場となる湿地の再生や、減農薬、無農薬による生きものあふれる水田づくりなどに取り組んできました。コウノトリ育む農法（減農薬、無農薬）で生産された米の価格は、従来の慣行農法で生産された米と比べて減農薬で112%、無農薬で127%高い価格で流通しています。また、コウノトリを見ることを目的に豊岡市を訪問する観光客は毎年30万人以上おり、観光客増による経済波及効果は毎年10億円にものぼります。

コウノトリと人が共存する写真が表紙に掲げられた「豊岡市環境経済戦略」のパンフレット

コウノトリブランドの特産品販売店はにぎわいを見せています

コウノトリが餌をとるために訪れる豊岡市内の湿地

サンゴ 沖縄県石垣市、竹富町

石垣島から西表島にかけてひろがる、わが国最大のサンゴ礁海域である石西礁湖では、「石西礁湖自然再生事業」が実施され、サンゴの保全や陸域からの赤土流入対策など、豊かなサンゴ礁生態系を守る取り組みが続けられています。

この地域の2005年の入域観光客数は74万人で、2002年度の観光収入は、石垣市だけで440億円にのぼります。また、観光客のうち、35%が何らかのマリンスポーツを体験し、19%がダイビングでサンゴ礁を観光しました。地域の自然資本であるサンゴ礁が良好な状態に保たれることによって、観光業が成り立っているのです。

石西礁湖の美しいサンゴ礁は、訪れる観光客の目を楽しませてくれます

ニホンミツバチ 東京都中央区

都心のビルの屋上で在来種のニホンミツバチが飼育されています

2006年より、都市と自然の共存をめざして、ビルの屋上で日本在来種であるニホンミツバチを飼う「銀座ミツバチプロジェクト」が始まりました。ミツバチは銀座の自然資本である街路樹や日比谷公園などに咲く花から蜜を集めます。専門家の指導を受けながら養蜂を行ったところ、2011年には、840kgの銀座産ハチミツを採取することができました。このハチミツは銀座の百貨店で直接販売されるほか、お菓子や石鹸などの原料となり、銀座のレストランやホテルなどで使われています。都市部であっても地域の自然資本がもたらす豊かな恵み（生態系サービス）が、地域の活性化につながっている例といえます。

採集されたはちみつは、「銀座のはちみつ」として、すべて銀座で販売・加工されます

ブナ 北海道黒松内町

北海道黒松内町では、まちづくりのシンボルとして「わが国北限のブナ」をかかげてきました。平成8年には環境基本計画を、平成24年には生物多様性地域戦略を策定し、ブナの森を核としたまちづくりを進めています。また、この取り組みを広域に広げるために、周辺地域14町村の連携による、地域連携保全活動計画を策定中です。

ブナの森をはじめとする豊かな自然を求めて、町には毎年、人口の40倍以上にあたる、約15万人の観光客が訪れます。また、町の豊かな自然がはぐくんだ乳製品や農産物は、黒松内ブランドとして人気を集めています。ブナの森については、その保全や観光客による過剰な立ち入りを防止するために公有林化が行なわれており、経済活性化とともに重要な取り組みが進められています。

写真右=黒松内町の豊かな自然の核となるブナの森
写真左=「道の駅」では、多くの特産品が販売され、人気を博しています